

アブラナ科野菜の害虫と対策 ～秋作に向けて～

8月下旬以降の秋作にはアブラナ科野菜が多く栽培されます。アブラナ科野菜は特に害虫の被害が多いため、今回は特に注意したい害虫とその対策をご紹介します。

1. アブラナ科野菜

キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン、カブ、コマツナ、チンゲンサイ、ノラボウナなどよく知られた野菜が多いです。これらの野菜は秋作が適温域であるため、作りやすく、多くの方が栽培される品目です。

2. 注意したい病害虫

(1) ハイマダラノメイガ(別名：ダイコンシンクイムシ)

卵からかえった幼虫が芯の葉を糸でつづり、芯葉を食べてしまいます(写真1)。そのため、成長が止まり、播き直しや植え直しを余儀なくされます。害虫の発生時期は8月中旬～10月上旬で、夏が高温少雨で残暑が厳しい年に多くみられます。ダイコン、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリーなどの幼植物で注意が必要です。



写真1 ハイマダラノメイガ(キャベツ)

【対策】①防虫ネットでトンネル被覆する。②幼植物の芯葉をこまめに観察して、糸やイモムシがいたら捕殺する。③登録薬剤を定植時(粒剤)や生育期(散布剤)に散布する。

(2) ヨトウムシ(ヨトウガ)

アブラナ科野菜の他、ホウレンソウ、ナスなど多くの野菜や花につきます。春と秋の2回発生し、特に秋(9月～11月は要注意)での被害が多い害虫です。若齢幼虫(初期の小さな幼虫：写真2)は集団で食害しますが、大きくなると散らばり、被害の程度も大きくなります。老齢幼虫(大きくなった幼虫：写真3)は夜間に活動します。



写真2 ヨトウムシ若齢幼虫
(ブロッコリー)



写真3 ヨトウムシ老齢幼虫

【対策】①防虫ネットでトンネル被覆する。②若齢幼虫が集団で食害している葉を除去し、大きくなった幼虫は捕殺する。③登録薬剤を散布する。ただし、薬剤は若齢幼虫には効果が高いですが、老齢幼虫には低いです。

(3) アブラムシ類

ハクサイ、ダイコン、カブは主にニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ、キャベツはダイコンアブラムシが多くつきます。いずれもウイルスを媒介するので注意が必要です。8月以降秋にかけて、特に高温、乾燥の年で秋の気温が高いと発生が多くなります。特に注意したいのはハクサイで、結球した葉の裏側に入り込み収穫ができなくなる場合もあります(写真4)。



写真4 アブラムシ類(ハクサイ)

【対策】①防虫ネット(0.8mm目合い)でトンネル被覆する。②忌避マルチ(シルバーマルチなど)を使用する。③登録農薬を定植時(粒剤)や生育期(散布剤)に散布する。

いずれの害虫も早め早めの対策が重要です。時々葉裏を観察して寄生しているかを確認しましょう。